

世界遺産都市・奈良に高速道路はいらない

大和北道路問題についての見解

井上 寛（高速道路から世界遺産・平城京を守る会
代表委員・ジャーナリスト）

1. 平城宮跡出土の木簡が重要文化財に
 - ・ 平城京遺跡の歴史的考古学価値の高さを改めて証明 画期的な出来事。
2. 大和北道路についての私たちの態度と主張
 - ・ 平城宮跡直下はもちろん、平城京跡にも世界遺産とその周辺にも高速道路はいらない。
 - ・ これが対案である。
3. 大和北道路問題が、なぜ、全国的世界的問題になったのか
 - ・ 世界遺産都市・奈良に高速道路を通そうとすること自体が大問題 - 世界的な異常事態。
 - ・ 有識者委員会は、この原点に立って慎重な検討を－“はじめに高速道路ありき”からの脱却を。
 - ・ 国交省は、まずなによりも「平城宮跡直下は避ける」ことを明言せよ。
 - ・ 世界遺産条約（第11条）と1970年のユネスコ勧告の重要性。
 - ・ 地下トンネルによる“地下水の文化財への影響軽微”について、専門家が“重大な疑念”を指摘 “疑わしきは通過させず”こそ、唯一、選択の道。
 - ・ 1200年余、巨大開発が避けられてきたことが、なによりの証明、科学的な証し。
4. 21世紀の奈良県のまちづくりと古都奈良の役割
 - ・ 奈良県全域を世界遺産都市（歴史公園都市）に－古代の幹線道路 下ッ道 を県土軸に。
 - ・ 歴史的遺産と景観の保全・再生を大前提に、快適で安心が保障される創造を政策の基本に－“開発か保存か”でなく。
 - ・ 外圧型（あるいは県外依存型）発展でなく、内発型発展の都市に。
 - ・ 古都奈良は、その先進的役割を。
5. 大和北道路は、奈良市にとって“打出の小槌”か
 - ・ 市内へのアクセスは？ 渋滞解消は？ 結局、通過道路にならないか？
 - ・ 多額の投資は県（市）民の負担増に？
 - ・ 逆に、大気汚染の増加、景観や環境の破壊、地下トンネルは災害時の“炎のトンネル”化の心配はないか？
 - ・ いま必要なのは、生活道路の整備を中心に、鉄軌道を含む総合的（交通需要管理政策《TDM》を含む）な交通政策と抜本的対策の確立を急ぐことではないか。

以上